

いだてん
韋駄天の記
劇作家 岡部耕大

⑥2



わたしが劇団を結成したのは

1970（昭和45）年である。

劇団三十人会の40人くらいの養成所を卒業して、劇団三十人会への入団を2、3人が許された。

新宿にはぼつぼつの髪で汚れた奇抜な格好をしたヒッピーが

屯していた。社会に背を背けた若者をフーテンとかヒッピーといった。「昭和元禄」の豊かさ甘えていただけだったのかもしれない。わたしも長髪にラッパスボンのジープで新宿を歩いた。まだ、髪の毛が豊富に

駅東口に集まった1万5千人のデモ隊は駅の鉄壁と看板を倒し、線路やホームに乱入し、列車ダイヤをまひさせた。当時、下宿をしていた渋谷区初台の古い家まで、線路沿いに歩いて帰ったことを覚えている。

のなどあるはずはない。良しあしは見てから決めればいい。なにかからも目を背けてはいけな

が開催された。閣議は国名の呼び方を「ニッポン」にすることに決めた。日航機よど号乗っ取り事件があり「ディスカバー・ジャパン」の示すレジャー・ブームが太平の世をうたった。この年、三島由紀夫割腹事件も起こっている。

劇団を始めた70年

あつた時代である。ただ、どの群れにも属さなかった。すでに群れることの怖さともなしさを知っていた。格好よくいえば離れ猿である。

新宿ではアングラの唐十郎氏一派が赤テントを張って人気を博していた。「あんなものは見

なまりを「そんななまりは日本にはない」と罵倒した。「肥前松浦にはあるとす」とヒロシ

の頃である。いまの家内と知り合ったのもこの頃である。どの人も救いの神であった。

10月21日、国際反戦デーの日、新宿駅騒乱事件があつた。新宿

発を覚えた。見てはいけな

これが決定的であつた。

1970年は日本万国博覧会（松浦市出身）